

防虫科学

季刊

第 42 卷—I

原 著

1. ニカメイガの合成性フェロモンの野外における誘引性
田付貞洋・太田九二・内海恭一・栗原政明・深見順一・岸野賢…… 1
 2. 殺虫剤の昆虫に対する致死作用に関する研究(第3報) 数種殺虫剤のカイコガ
幼虫およびアメリカシロヒトリ幼虫に対する殺虫効力の定量的表現法
佐藤仁彦・諏訪内正名……3
 3. イソキサチオンの残留性の研究(第1報) 作物および土壌中のイソキサチオンと
そのオクソン体の残留分析法および残留性の予検討
中村利家・山岡 剛・斉戸 猛……32
 4. 蚊取線香中の光学活性アレスリンの分析
高野武之助……40
 5. ツノロウムシ成虫の産卵におよぼす, JH 様活性物質 methoprene の作用
浅野昌司・亀井正治……45
 6. アゲハおよびヨトウガ蛹に誘起される metepa の催奇機構
中山 勇・安居院宜昭・八木繁実……50
 7. 経口投与による酸, 塩基, 塩溶液のカイコの体液成分におよぼす影響
黒田 稔……58
- 新刊紹介 ……49
- 抄 録 ……61

財団法人 防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭 和 5 2 年 2 月

防 虫 科 学

編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

藤 田 稔 夫 深 海 浩 井 上 雄 三 石 井 象 二 郎

中 島 稔 高 橋 史 樹 高 橋 正 三 内 田 俊 郎

投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究報文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会できめる。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
2. 報文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
3. 邦文原稿は原則としてA4判横書原稿用紙(400字詰)を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または青線方眼紙にていねいに墨書し、原稿とは別紙とする。
5. 動植物の学名の下には _____ を付ける(例: Chilo suppressalis イタリックとなる)。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本既刊誌を参照されたい。
6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は報文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には~~~~~を付ける(例: (1) Stevenson E. and G. R. Wyatt : Arch. Biochem. Biophys. 99, 65, 1966)。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
8. 原稿の送付には送状を付し、発送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部
農業研究施設 石井象二郎 (075) 751-2111 内 6 3 0 5

賛助会員

小林政株式会社
三共株式会社
住友化学工業株式会社

大日本除虫菊株式会社
武田薬品工業株式会社

維持会員

アース製薬株式会社
宇部興産株式会社
大阪化成株式会社
大塚製薬株式会社ソエコン課
科研化学株式会社
化研工業株式会社
花王石鹼株式会社
協和醗酵工業株式会社
キング化学株式会社
クミアイ化学工業株式会社
呉羽化学工業株式会社
サンケイ化学株式会社
塩野義製薬株式会社
大正製薬株式会社
高砂香料工業株式会社
株式会社立石春洋堂

トモノ農薬株式会社
長岡駆虫剤製造株式会社
長瀬産業株式会社
日産化学工業株式会社
日本化薬株式会社
日本曹達株式会社
日本特殊農薬製造株式会社
日本農薬株式会社
フマキラー株式会社
北興化学工業株式会社
三笠化学工業株式会社
三菱瓦斯化学株式会社
八洲化学工業株式会社
株式会社柳本製作所
山本農薬株式会社
ライオンかとり株式会社

(五十音順)

昭和52年2月25日印刷 昭和52年2月28日発行

防虫科学 第42巻-I 定価 ¥ 1000.

個人会員年2000円 団体会員年3500円 外国会員年U.S. \$10

編集者 深海 浩 石井象二郎
606 京都市左京区北白川 京都大学農学部

発行所 財団法人 防虫科学研究所
京都市左京区北白川 京都大学農学部内
(振替口座・京都5899)

印刷所 昭和印刷
京都市下京区猪熊通七条下ル

“SCIENTIFIC PEST CONTROL”
BOTYU-KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Toshio FUJITA, Hiroshi FUKAMI, Yuzo INOUE, Shojiro ISHII,
 Minoru NAKAJIMA, Fumiki TAKAHASHI, Shozo TAKAHASHI, Syunro UTIDA

CONTENTS

Originals

1. Field Attractiveness of the Synthetic Sex Pheromones of the Rice Stem Borer Moth, *Chilo suppressalis* Walker (Lepidoptera: Pyralidae).
 Sadahiro TATSUKI, Kyuji OHTA, Kyoichi UCHIUMI, Masaaki KURIHARA,
 Jun-ichi FUKAMI and Ken-ichi KISHINO 1
2. Studies on the Toxic Action of Insecticides against Insects. III. Quantitative Expression of Toxicities of Several Insecticides against Larvae of the Silkworm, *Bombyx mori* L. (Lepidoptera: Bombycidae) and of the Fall Webworm, *Hyphantria cunea* Drury (Lepidoptera: Arctiidae).
 Kimihiko SATO and Masana SUWANAI..... 3
3. Studies on Persistence of Isoxathion. I. Residue Determination of Isoxathion and Its Oxygen Analog and Preliminary Studies on Persistence of Isoxathion in Crops and Soils.
 Toshiie NAKAMURA, Katashi YAMAOKA and Takeshi SAITO.....32
4. Analysis of Optically Active Allethrin in Mosquito Coils.
 Takenosuke TAKANO.....40
5. Effects of Methoprene with Juvenile Hormone Activity on the Oviposition of the Oriental Horned Wax Scale, *Ceroplastes pseudoceriferus* Green.
 Shoji ASANO and Masaharu KAMEI.....45
6. Deforming Mechanism of Metopa for Wing Part of the Smaller Citrus Dog, *Papilio xuthus* L., and the Cabbage Armyworm, *Mamestra brassicae* L.
 Isamu NAKAYAMA, Noriaki AGUI and Shigemi YAGI.....50
7. Effects of Oral Administration of Acid, Base and Salt Solutions Upon the Concentration of Some Blood Constituents in Silkworm Larvae.
 Shigeru KURODA.....58

Book Review

.....49

Abstracts

.....61

Published by

THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL

Kyoto University

Kyoto, Japan